

道路ユーザーネットワーク広場

NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK



ワコタさんと神秘の里を激走中。自称ニンジャだけあって、どの路面でも素早かったです。



伝説が残る朱色の登波離橋(とはりばし)。昔から何度も架け替えられたとか。ここは池田町！



長野市の信州トレイルマウンテンの元気女子たち。お天気も良く誰もがこんな気持ちでした。

今年、年末には還暦を迎えます。幼い頃には空の彼方の数字でしたが、「ええっ？」と思うほど早かったですね。そして、そんな歳なのに、「走る」ということをテーマにした仕事依頼をよく戴きます。青年ではなく、「オバ様はなぜ荒野をめざす」のか謎なのでしよう。「オバ様だから向かうのよ！」。俳人だって登山家だって、人生後半の方がエンジンがかかるもの。今までの2倍は生きられない訳で、当然、やりたかったことを並べて吟味します。どうしても体力系から並ぶので、ランに関係したことが多くなります。とはいえ、今年の出だしは昨年末の温泉での転倒(頭強打)から始まって、雪掻き

のし過ぎで人生初のギックリ腰と続き、予定していたレースに参加できず涙の日々。ようやく盛り返して参加できたのが、3月末に近所で開催された「いさか村おやきロゲイニング」でした。

私の住む松本市四賀地区から車で30分ほどのところにある、人口1855人の長野県東筑摩郡生坂村。界隈の池田町や筑北村にはよく行っていたのに、なぜかほとんど抜けていたこの小さな村。主催者の「生坂は日本マチュピチュなんだ」という言葉にそそられて、すぐにエントリー。蛇のように畛る犀川と、標高は大したことないけれど連なる山々と溪谷は、「米は打」から始まって、雪掻き

たものの、「かつては養蚕で栄えたので、村民は豊かで山の上にも夏の家(別荘)を持つほどだった」という文化を生み出したそう。

縄文時代の遺跡も発掘され、七千年前から人が住んでいたという村は、確かに住みたくなくなるような神秘の里山でした。30カ所のポイントを、3時間以内に回って競う今回のロゲイニング、古くは同じ松本市在住のフルマソン大好きランナーと組んで出ました。市の職員でもあるワコタさん、ギックリ礼子を先導してくれるだけでなく、要所でいろいろな解説をしてくれました。「このダムには四賀からのゴミや泥が蓄積して、清掃もするんだよ」「あ、この道からは池田町になります」「この橋は下に川がありません。山と山の橋でございます」。

今回のコースは山と平地を رفتりたり来たりするかなり厳しいコースでもあったのですが、それよりもこの道祖神やお堂もきつと守られていることや、簡易であれ一車線であれ、どの山道も立派に整備されていることに驚きました。今までのレースで様々な街を走ってきた、けっこう廢路を見かけましたが、ここはこの道も生きており、ほんとうに美しい。ゴミもなく、藪コキもしたけれど、山も荒れてなかった。小さいけれど(小さいからこそ?)、地元民でも日本再発見の連続となります。トップを自指すも競わず家族で歩くもよしで、途中他のチームと出会うと、どの人も満面の笑み。そんなレースはありませぬ。とはいえゲームなので、頭は常にフル回転。だからこそ面白く、終わった後も、地図を片手に何時間でも語ることができます。私は、3日間はその地図が夢に出てきて楽しんでます。あと30年はやってみないかな。

さて、この後は、またスベシヤルなイベントが目白押し。今年は、ランはランでも、バイクでのランがぐっと増えそうな気配。次回こそ春のツーリング話を紹介したいと思っていますが、その前にギックリ腰を完治しなくては！

今年話題になった映画に遠藤周作原作、マティン・スコセッシ監督による映画「沈黙」があります。江戸時代のキリシタン弾圧の様子を描いた内容は、信仰の意味を問う深く重いテーマでした。そして、この小説の舞台となったのが長崎県の西岸にある外海(とめ)という地区。海岸沿いの美しい景観が続く地域で、キリスト教関連の史跡だけでなく、古代の古墳や寺社仏閣なども点在しています。また、日本に3カ所しかないといわれるキリシタン神社のひとつ、サン・ジヴァン枯松神社もあります。潜伏時代の隠れキリシタンが密かに集まってオラショ(祈り)を捧げてきた場所であり、現代でもここで儀式が行われるのではないのでしょうか。実は

絶たない現実があります。地域の人々が交代で張り番に出て注意をしても、まったく無視し突破して走り去っていきま。殆ど跳ね飛ばしてしまいうる勢いで。

これは、認知症や突発性の病でもなく、車の故障でもなく、ドライバーの意思そのものです。朝の忙しい時間とは言え五分十分早くなるからと言つこと許されるものではないですね。厳罰に処すことを強く望みます。

加えて、自転車について今一度注意をお願いします。自転車は車両です。通行帯も決まりがあります。信号も標識も守らなければいけません。オラシヨは賛美歌などが変化して口伝えで受け継がれてきたもので、その独特の節回しと響きに長い苦難の年月を感じずにはいられません。



春もとめて。おびけは安全ドライブで。

私には交通事故は無くす事ができると信じています。未来の完全自動運転にならなくとも、人が操作する現在でも、だって、今の事でも、それは音であって、乗る人、歩く人、側にいる人たちが関わりあって、安全で安心して豊かにユースだったかど記に、かつ楽しく過せることが出来て、音楽になるとります。曰く「高価な楽器、高度な演奏の技術で奏でられるのは音である音でも、音である音は、いろいろな音が混ざり合って、その音の中に人がいて感じるもの、まさに「楽しむものだ」と言いたくなっています。自分にも問

私は交通事故は無くす事ができると信じています。未来の完全自動運転にならなくとも、人が操作する現在でも、だって、今の事でも、それは音であって、乗る人、歩く人、側にいる人たちが関わりあって、安全で安心して豊かにユースだったかど記に、かつ楽しく過せることが出来て、音楽になるとります。曰く「高価な楽器、高度な演奏の技術で奏でられるのは音である音でも、音である音は、いろいろな音が混ざり合って、その音の中に人がいて感じるもの、まさに「楽しむものだ」と言いたくなっています。自分にも問

私は交通事故は無くす事ができると信じています。未来の完全自動運転にならなくとも、人が操作する現在でも、だって、今の事でも、それは音であって、乗る人、歩く人、側にいる人たちが関わりあって、安全で安心して豊かにユースだったかど記に、かつ楽しく過せることが出来て、音楽になるとります。曰く「高価な楽器、高度な演奏の技術で奏でられるのは音である音でも、音である音は、いろいろな音が混ざり合って、その音の中に人がいて感じるもの、まさに「楽しむものだ」と言いたくなっています。自分にも問

いたただきたいだけです。

今年、年末には還暦を迎えます。幼い頃には空の彼方の数字でしたが、「ええっ？」と思うほど早かったですね。そして、そんな歳なのに、「走る」ということをテーマにした仕事依頼をよく戴きます。青年ではなく、「オバ様はなぜ荒野をめざす」のか謎なのでしよう。「オバ様だから向かうのよ！」。俳人だって登山家だって、人生後半の方がエンジンがかかるもの。今までの2倍は生きられない訳で、当然、やりたかったことを並べて吟味します。どうしても体力系から並ぶので、ランに関係したことが多くなります。とはいえ、今年の出だしは昨年末の温泉での転倒(頭強打)から始まって、雪掻き

たものの、「かつては養蚕で栄えたので、村民は豊かで山の上にも夏の家(別荘)を持つほどだった」という文化を生み出したそう。

縄文時代の遺跡も発掘され、七千年前から人が住んでいたという村は、確かに住みたくなくなるような神秘の里山でした。30カ所のポイントを、3時間以内に回って競う今回のロゲイニング、古くは同じ松本市在住のフルマソン大好きランナーと組んで出ました。市の職員でもあるワコタさん、ギックリ礼子を先導してくれるだけでなく、要所でいろいろな解説をしてくれました。「このダムには四賀からのゴミや泥が蓄積して、清掃もするんだよ」「あ、この道からは池田町になります」「この橋は下に川がありません。山と山の橋でございます」。

今回のコースは山と平地を رفتりたり来たりするかなり厳しいコースでもあったのですが、それよりもこの道祖神やお堂もきつと守られていることや、簡易であれ一車線であれ、どの山道も立派に整備されていることに驚きました。今までのレースで様々な街を走ってきた、けっこう廢路を見かけましたが、ここはこの道も生きており、ほんとうに美しい。ゴミもなく、藪コキもしたけれど、山も荒れてなかった。小さいけれど(小さいからこそ?)、地元民でも日本再発見の連続となります。トップを自指すも競わず家族で歩くもよしで、途中他のチームと出会うと、どの人も満面の笑み。そんなレースはありませぬ。とはいえゲームなので、頭は常にフル回転。だからこそ面白く、終わった後も、地図を片手に何時間でも語ることができます。私は、3日間はその地図が夢に出てきて楽しんでます。あと30年はやってみないかな。

さて、この後は、またスベシヤルなイベントが目白押し。今年は、ランはランでも、バイクでのランがぐっと増えそうな気配。次回こそ春のツーリング話を紹介したいと思っていますが、その前にギックリ腰を完治しなくては！

今年話題になった映画に遠藤周作原作、マティン・スコセッシ監督による映画「沈黙」があります。江戸時代のキリシタン弾圧の様子を描いた内容は、信仰の意味を問う深く重いテーマでした。そして、この小説の舞台となったのが長崎県の西岸にある外海(とめ)という地区。海岸沿いの美しい景観が続く地域で、キリスト教関連の史跡だけでなく、古代の古墳や寺社仏閣なども点在しています。また、日本に3カ所しかないといわれるキリシタン神社のひとつ、サン・ジヴァン枯松神社もあります。潜伏時代の隠れキリシタンが密かに集まってオラショ(祈り)を捧げてきた場所であり、現代でもここで儀式が行われるのではないのでしょうか。実は



海に面した素晴らしいロケーションにある遠藤周作文学館

夕陽の美しさで知られる外海はキリシタン信仰の里でもある



ずっと見守ってくれた藤澤泰彦村長さんと、我がチーム「やまちゃん」。

三好礼子
エッセイスト・国際ラリスト
～http://www.fairytale.jp/～



名前の通り坂道多し。でもどこからでもアルプスが見えて疲れ知らず♪



野菜、あんこ、なんでも美味しいおやき。このあたりはこの形。一個食べればお腹パンパンに。

フリージャーナリスト 湯浅玲子

は、現代にも隠れキリシタンはいるのです。正確にはスコセッシ監督による映画「沈黙」があります。江戸時代のキリシタン弾圧の様子を描いた内容は、信仰の意味を問う深く重いテーマでした。そして、この小説の舞台となったのが長崎県の西岸にある外海(とめ)という地区。海岸沿いの美しい景観が続く地域で、キリスト教関連の史跡だけでなく、古代の古墳や寺社仏閣なども点在しています。また、日本に3カ所しかないといわれるキリシタン神社のひとつ、サン・ジヴァン枯松神社もあります。潜伏時代の隠れキリシタンが密かに集まってオラショ(祈り)を捧げてきた場所であり、現代でもここで儀式が行われるのではないのでしょうか。実は

神父様で記念館や墓が残っています。また「沈黙」の舞台となったことから、遠藤周作の没後に遺品など約3万点が寄贈されて遠藤周作文学館がオープンしました。東シナ海を臨む素晴らしいロケーションにあり、これらに祈りを捧げてきた時代に、きつと変わらぬ美しさだと思います。

これらに祈りを捧げてきた時代に、きつと変わらぬ美しさだと思います。